

日本とは何か、日本人とは何かを考え続けた国民的作家、司馬遼太郎が72歳で亡くなって20年がたちました。『関ヶ原』『播磨灘物語』『竜馬がゆく』『菜の花の沖』『この国のかたち』などの多くの作品は日本人に愛され、読み継がれています。

本展は、戦国から現代までの司馬作品が並ぶ展示会場を、『二十一世紀に生きる君たちへ』に通じる未来の街角に見立て、貴重な自筆原稿や挿絵、関連する歴史資料などを展示します。

司馬遼太郎記念室がある姫路文学館において、司馬遼太郎の遺したメッセージを皆さんが体感し、何かを考え、行動するきっかけになることを願っています。

あなたが今歩いている二十一世紀とは、どんな世の中でしょう。

PROFILE 司馬 遼太郎

(大正12年～平成8年 1923～1996)

大阪市生まれ。

産経新聞文化部記者時代の1960(昭和35)年『梟の城』で直木賞受賞。

『竜馬がゆく』『坂の上の雲』『関ヶ原』『播磨灘物語』といった小説、『街道をゆく』などの紀行、エッセイなど作品多数。

1993(平成5)年文化勲章受章。



データ提供 朝日新聞社

記念イベント

記念講演会

- 日時/10月21日(土) 午前11時～12時(開場10時30分)
- 会場/講堂(北館3階) ●講師/上村洋行氏(司馬遼太郎記念館館長)
- 定員/150人※観覧券が必要(使用済半券も可)・申込み不要

司馬遼太郎の文学散歩

- 日時/10月29日(日) 午前9時～12時
- コース/山電・西飾磨駅-英賀神社-英賀城跡公園-広畑天満宮
- 講師/富士本健氏(播磨学研究所事務局長) ●定員/40名
- 申し込み/往復はがきに参加者の住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、姫路文学館「司馬遼太郎の文学散歩」係まで。
- 締切り/10月20日(金) [消印有効]※多数の場合は抽選。

担当学芸員による展示解説

- 日時/11月11日(土)、12月9日(土) 両日とも午後1時30分～(40分程度)
- 会場/企画展示室・特別展示室にて(当日の観覧券が必要)

司馬遼太郎の作品を読む朗読会

- 日時/11月23日(木・祝) 午後1時30分～3時(開場1時)
- 会場/講堂(北館3階)
- 出演/音訳ボランティアグループ サークルさえずり
- 「播磨灘物語」より「姫路村」、「司馬遼太郎が考えたこと」より「官兵衛と英賀城」、「花妖譚」より「チューリップの城主」
- 定員/150名※申込み不要・当日先着順



石田三成像/前田幹雄筆
大阪城天守閣蔵

戦国動乱 16世紀の街角
16世紀の街角で私たちは、動乱の時代を駆け抜けた人々の輝きにであう。

維新回天 19世紀の街角
19世紀の街角で私たちは、いままに生まれたばかりの日本人が持ち合わせていた、志にであう。



「竜馬がゆく」単行本/司馬遼太郎記念館蔵



辰悦丸模型/坂口富逸氏蔵

裸眼の思索 21世紀の街角
21世紀の街角で私たちは、司馬遼太郎が考え続けた、いまだ新しい足跡にであう。



この国のかたち 自筆原稿 司馬遼太郎記念館蔵

「モンゴル紀行」挿絵原画/須田剌太画
大阪府(大阪府20世紀美術コレクション)蔵



「梟の城」を執筆した文机/
司馬遼太郎記念館蔵

コラム 原点-作家への道

その他
ご案内

姫路市立美術館
☎079-222-2288

「永井一正ポスター展」
11月12日(日)～12月24日(日)

姫路市立美術館
☎079-267-0301

秋・季特別展示「アジアのやきもの-中国と周辺国々の陶磁器」
10月21日(土)～12月24日(日)



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp/

- JR山陽電鉄姫路駅より神姫バス9-10-17-18番のりばで乗車6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分。城周辺観光ループバスで乗車10分、「清水橋(文学館前)」下車、西へ徒歩3分。
- 山陽自動車道姫路東1.C.あるいは姫路西1.C.下車約20分。
- 姫路バイパス中地ランプ下車約15分。



Information 司馬遼太郎記念室

司馬遼太郎と播磨の縁について
『播磨灘物語』などを展示。(南館1階)